健康生活科学特論

(Health and Human Life Sciences Specialize)

科目区分	担当教員							
看護	道信 良子 法木 左近 村上 茂 笠井 恭子							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	法木 : snoriki 村上 : murakami 笠井 : kasai ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp 道信 : michinor77@gmail.com							
授業概要	人間の健康と生活にかかわる多岐にわたる現象や課題について、医療人類学、医学、病理学、食品機能学、看護学の視点から多角的に学ぶ。健康上・生活上の課題を科学的・客観的視野から探究・評価し、現象理解と問題解決のための方策を立案・実行する能力を身につける。人と地域のウェルビーイング(well-being)の向上に貢献できる能力を取得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活科学並びに医療人類学に必要な理論と方法論を理解できる。 2. 感染症、生活習慣病やがんに関わる病態・診断・治療などについて理解できる。 3. 健康と食品、健康と医薬品の視点から、人々の健康と生活について理解できる。 4. 看護学における人間・健康・生活のとらえ方を理解できる。 (本授業は、DP1に対応している。)							
授業計画・内容	第1～6回(道信) ・健康生活科学の理論と方法論(健康生活科学の基礎学的側面から) ・医療人類学の理論と方法論(健康生活科学の応用学的側面から) ・ヘルス・エスノグラフィの方法論(健康生活科学の実践的側面から) 第7回(法木) 感染症に関わる病態・診断・治療(医学的・病理学的側面から) 第8回(法木) 生活習慣病に関わる病態・診断・治療(医学的・病理学的側面から) 第9回(法木) がんに関わる病態・診断・治療(医学的・病理学的側面から) 第10～12回(村上) ・海藻や農作物の健康増進効果と生活習慣病予防への利用 ・健康と食品、健康と医薬品の視点から見た人々の健康と生活 第13回(笠井) 主要な看護理論家がとらえる人間 第14回(笠井) 主要な看護理論家がとらえる健康 第15回(笠井) 主要な看護理論家がとらえる環境 ※遠隔授業となった場合には、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	人間 健康 生活 ウェルビーイング(well-being)							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	評価方法：個別課題レポート(100%) 第1～6回：人間、健康、環境に関する医療人類学の理解度と学び(25%) 第7～9回：感染症・生活習慣病・がんに関わる病態・診断・治療の理解度と学び(25%) 第10～12回：Well-being 実現や看護現場における食品機能の活用(25%)(25%) 第13～15回：看護学がとらえる人間、健康、環境に関する理解度と学び(25%) 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか。 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	研究倫理特論							

履修要件	なし
必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する。
その他	特別講師による講義がある場合があります。 授業の実施方法：対面授業と遠隔授業のハイブリッド及びハイフレックス

研究倫理特論

(Research Ethics Specialize)

科目区分	担当教員							
共通 必修	米田 誠 笠井 恭子							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	米田 : myoneda 笠井 : kasai ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	<p>研究者として誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について次の点を学習する。</p> <p>(本授業は、DP1に対応している。)</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健全な研究を行うための基本的倫理事項について理解できる。 2. ゲノム取り扱い・遺伝倫理・生殖医療の倫理について理解できる。 3. 人を対象とする研究一般における臨床倫理について理解できる。 4. 看護福祉研究における倫理について理解できる。 							
授業計画・内容	<p>第1～12回 (米田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な研究を行うための基本的倫理事項 ・ゲノム取り扱い・遺伝倫理・生殖医療の倫理 <p>第13～15回 (笠井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を対象とする看護福祉研究における臨床倫理 <p>※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。</p>							
キーワード	臨床倫理 ゲノム 遺伝倫理 生殖医療の倫理							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート等（100％）で評価し、60％以上を合格とする。</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p> <p>※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。</p>							
関連科目	健康生活科学特論							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

健康科学特論

(Health Sciences Specialize)

科目区分	担当教員							
専門 必修（領域別）	水谷 哲也 村上 茂 川村 みどり 大島 千佳 藤野 秀則							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	水谷：mizutani 村上：murakami 川村：kwmr2021 大島：oshima 藤野：fujino ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	人々の心身の健康と向上と新たな充実した生き方の創出に資するため、基礎医学、食品健康学、看護理工学、人間工学を中心とした視点からアプローチする方法について教授する。また、新たな知見と発見を見出す研究プロセスについて、多角的・多面的な研究方法及び量的研究の基礎となる統計学的手法について教授する。							
到達目標	人々の心身の健康と向上に資するため、新たな知見と発見を見出す研究プロセスについて、多角的・多面的なアプローチ方法・研究方法を理解し、量的研究の基礎となる統計学的手法について習得できる。 (本授業は、DP2 に対応している。)							
授業計画 内容	第1～3回（水谷） ・バイオマーカーの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第4～6回（村上） ・食品機能学の視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第7～11回（川村） ・パーソナル・リカバリーの視点から精神障害者の充実した生き方へのアプローチ方法 ・第12～13回（大島） ・エビデンスに基づく看護ケアの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第14～15回（藤野） ・ヒューマンインタフェースの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	健康 基礎医学 食品健康学 看護理工学 人間工学 研究方法							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・ 評価基準	評価方法：個別課題レポート等（100%）で評価し、60%以上を合格とする。 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	看護実践開発演習 健康バイオマーカー演習							
履修要件	なし							
必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する							
その他								

看護実践開発演習

(Nursing Practice Development Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	笠井 恭子 大島 千佳 熊谷 あゆ美 山内 豊明							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	笠井 : kasai 大島 : oshima 熊谷 : ayuku ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	超音波エコー、自律神経測定、バーチャルリアリティー (VR)等の各種機器を用いた演習を行うとともに、エビデンスに基づく看護実践の開発を目指す研究プロセスについて関連論文の抄読、ディスカッションをとおして探究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、エビデンスに基づく看護実践の開発に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて実践的な研究プロセスを習得する。 (本授業は、DP3に対応している。)							
授業計画・内容	第1～20回 (笠井・大島) ・自律神経測定器を用いた演習 ・睡眠測定機器を用いた演習 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第21～60回 (熊谷・山内) ・バーチャルリアリティー (VR)・多職種ハイブリッドシミュレーターを用いた高度看護実践演習 ・体圧分布測定器・超音波エコーを用いた創傷予防に関する演習 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション ※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	エビデンス 看護実践 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に紹介する							
評価方法・評価基準	評価方法：第1～20回：毎授業時のプレゼンテーションとディスカッション状況 (25%) 授業で取り扱った演習の理解度と学びに関するレポート (25%) 第21～60回：毎授業時のプレゼンテーションとディスカッション状況 (25%) 授業で取り扱った演習の理解度と学びに関するレポート (25%) 60%以上を合格とする。 評価基準：①自分の主張 (考えや思い) を表現する力およびプレゼンテーション力、②課題の的確な把握、③論旨の一貫性、④資料の構成の適切性、 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	健康科学特論 健康バイオマーカー演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他	特になし							

健康バイオマーカー演習

(Health Biomarkers Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	法木 左近 米田 誠 村上 茂 水谷 哲也							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	法木 : snoriki 米田 : myoneda 村上 : murakami 水谷 : mizutani ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	健康と密接に関連するフレイル、運動、睡眠、食事、活性酸素などを評価するバイオマーカーについて、測定手技、評価法などの実践的アプローチを演習するとともに、関連論文の抄読、ディスカッションをとおして探究する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題と関連させながらバイオマーカーに関する英語論文を理解できる。 2. 自らの研究課題と関連させながらバイオマーカーの評価法を理解できる。 3. ディスカッションを通じて実践的な研究プロセスを理解できる。 (本授業は、DP3に対応している。)							
授業計画・内容	第1～15回(法木) ・感染症、とくに真菌に関連したバイオマーカー実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第16～30回(米田) ・老化や疾病に関わる酸化ストレスの影響に関する活性酸素の測定や培養細胞を用いた実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第31～45回(村上) ・食品の機能評価に関する実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第46～60回(水谷) ・胎盤に関連したバイオマーカー実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション							
キーワード	バイオマーカー 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	評価方法：個別課題レポート等(100%)で評価し、60%以上を合格とする。 第1～15回：感染症に関するバイオマーカーに関する理解度と学び(25%) 第16～30回：酸化ストレスに関するバイオマーカーに関する理解度と学び(25%) 第31～45回：食品の機能評価に関する理解度と学び(25%) 第46～60回：胎盤に関連したバイオマーカーに関する理解度と学び(25%) 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	健康科学特論 看護実践開発演習							
履修要件	なし							

必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する
その他	

健康福祉学特論

(Health and Welfare Science Specialize)

科目区分	担当教員							
専門	久米 真代 道信 良子 平井 一芳 田中 裕美子							
必修 (領域別)	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	道信 : michinor 平井 : thirai 田中 : yktanaka 久米 : kume ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	社会福祉政策の歴史を学び、現状での高齢者福祉・障害者福祉、地域福祉の課題とそれに対する解決策について講究する。社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法を学習する。							
到達目標	健康福祉に関連する複雑多岐な課題について理論的・実践的側面から理解できる。 社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法を習得することができる。 (本科目は DP2 に対応している。)							
授業計画・内容	<p>第 1～2 回, 10～11 回 (久米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の課題や解決策における社会福祉政策の変遷、および医療と社会福祉のシームレス化により多職種が連携してアプローチする方法 <p>第 3～6 回 (田中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会政策の視点から非正規雇用を中心とした労働問題へのアプローチ方法 <p>第 7～9 回 (道信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人類学の視点から複雑多岐な課題を抱える人々がともに暮らす地域共生社会の実現を目指したアプローチ方法 <p>第 12～15 回 (平井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学の視点から健康福祉に関連する多様な課題、とくにフレイル・生活習慣病に対する社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法 							
キーワード	健康福祉 社会福祉政策 Well-being アプローチ							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート等（100％）で評価し、60％以上を合格とする。</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p>							
関連科目	保健医療福祉演習 地域包括ケア演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

保健医療福祉演習

(Health Care and Welfare Seminar)

科目区分	担当教員							
看護	岡田隆志 坂口昌宏 久米真代 道信良子 平井一芳							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	岡田:okataka 坂口:msaka 久米:kume 道信:michinor 平井:thirai ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化等が進むわが国の現状と課題を明らかにし、保健医療福祉の視点からこれらの課題を解決するための方法について講究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、保健医療福祉の課題解決に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて解決方法について理解できる。 (本授業は、DP4 に対応している。)							
授業計画・内容	<p>第 1～15 回（岡田）精神保健福祉学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第 15～30 回（坂口）社会保障の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第 30～40 回（久米）老年看護学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第 40～50 回（道信）医療人類学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第 51～60 回（平井）公衆衛生の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッション</p>							
キーワード	ヘルスケアニーズ 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート（100%）で評価する</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p>							
関連科目	健康福祉学特論 地域包括ケア演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

地域包括ケア演習

(Community-based Integrated Care System Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	坂口 昌宏 小島 亜未 梅津 千香子 岡田 隆志							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	坂口 : mssaka 小島 : akojima 梅津 : cumezu 岡田 : okataka ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	地域・在宅看護、地域・精神保健、地域福祉に関連する諸理論を統合しながら、わが国が推進している地域包括ケアシステムを構築するための方法について講究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、地域社会における諸問題に対する対処・解決方法に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて解決方法について理解できる。 (本授業は、DP4に対応している。)							
授業計画・内容	<p>第1～15回(坂口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法 ・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法 ・論文の抄読、ディスカッション <p>第16～30回(小島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健・地域看護に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法 ・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法 ・論文の抄読、ディスカッション <p>第31～45回(梅津)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法 ・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法 ・論文の抄読、ディスカッション <p>第46～60回(岡田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健・障害者福祉に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法 ・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法 ・論文の抄読、ディスカッション 							
キーワード	地域包括ケアシステム 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート等(100%)で評価し、60%以上を合格とする。</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p>							
関連科目	健康福祉学特論 保健医療福祉演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							

その他

健康基礎科学特別研究

(Research : Basic Health Sciences)

科目区分	担当教員							
特別研究 必修 (領域別)	米田 誠 法木 左近 村上 茂 笠井 恭子 水谷 哲也 川村 みどり 大島 千佳 熊谷 あゆ美							
	授業方法	その他	対象学年	1~3	開講期	通年	単位数	6
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	米田 : myoneda 法木 : snoriki 村上 : murakami 笠井 : kasai 水谷 : mizutani 川村 : kwmr2021 大島 : oshima 熊谷 : ayuku ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	博士論文を作成するため、基礎となるコースワークをすすめながら研究課題を決定し、研究全体の計画を立案する。研究計画書、倫理審査申請書類を作成し、倫理委員会へ書類を提出し、承認後、計画に基づき研究を遂行する。研究結果をまとめ、博士論文を作成する。2年次に研究の進捗状況を発表する中間発表会、3年次に博士論文予備審査・公開発表会を行う。 (本授業は、DP5に対応している。)							
到達目標	1. 研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を完成、倫理審査申請書類を作成できる。 2. 研究に必要な倫理的配慮を実施できる。 3. データ収集・分析に必要な手法を理解し実施できる。 4. 博士論文を完成できる。							
授業計画・内容	博士論文を完成させるために、研究指導教員、研究指導補助教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。 1. 自己の研究課題に関連する先行研究の内容を概説し、研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を作成する。 2. 研究対象者に対する倫理的配慮を明確にし倫理審査申請書類を作成し倫理委員会に提出して承認を得る。 3. 研究対象者に研究の概要、目的・方法等について文書を用いて口頭で説明し研究協力の同意を得てデータを収集する。 4. データの分析を行い、結果を記述する。 5. 文献を活用しながら考察する。 6. 博士論文を作成し推敲する。 7. 博士論文内容の予備審査を受ける。 8. 博士論文公開発表会で発表、質疑応答を行い、その後、最終試験を受ける。 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	研究計画 倫理審査 博士論文作成 発表							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	福井県立大学大学院健康生活科学研究科博士学位論文審査細則に示すとおりである。 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	研究倫理特論 専攻領域の特論・演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	内容を十分検討した資料を準備し、確認したいことを明確にした上でゼミに臨む。							
その他								

健康生活探究特別研究

(Research : Health and Human Life inquiry)

科目区分	担当教員							
特別研究 必修 (領域別)	道信 良子 久米 真代 田中 裕美子 岡田 隆志 平井 一芳							
	授業方法	その他	対象学年	1~3	開講期	通年	単位数	6
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	道信 : michinor 久米 : kume 田中 : yktanaka 岡田 : okataka 平井 : thirai ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp							
授業概要	博士論文を作成するため、基礎となるコースワークをすすめながら研究課題を決定し、研究全体の計画を立案する。研究計画書、倫理審査申請書類を作成し、倫理委員会へ書類を提出し、承認後、計画に基づき研究を遂行する。研究結果をまとめ、博士論文を作成する。2年次に研究の進捗状況を発表する中間発表会、3年次に博士論文予備審査・公開発表会を行う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を完成、倫理審査申請書類を作成する。 2. 研究に必要な倫理的配慮を実施する。 3. データ収集・分析に必要な手法を理解し実施する。 4. 博士論文を作成する。 (本授業は、DP5に対応している。)							
授業計画・内容	博士論文を完成させるために、研究指導教員、研究指導補助教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題に関連する先行研究の内容を概説し、研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を作成する。 2. 研究対象者に対する倫理的配慮を明確にし倫理審査申請書類を作成し倫理委員会に提出して承認を得る。 3. 研究対象者に研究の概要、目的・方法等について文書を用いて口頭で説明し研究協力の同意を得てデータを収集する。 4. データの分析を行い、結果を記述する。 5. 文献を活用しながら考察する。 6. 博士論文を作成し推敲する。 7. 博士論文内容の予備審査を受ける。 8. 博士論文公開発表会で発表、質疑応答を行い、その後、最終試験を受ける。 							
キーワード	研究計画 倫理審査 博士論文作成 発表							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	福井県立大学大学院健康生活科学研究科博士学位論文審査細則に示すとおりである							
関連科目	研究倫理特論 専攻領域の特論・演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	内容を十分検討した資料を準備し、確認したいことを明確にした上でゼミに臨む							
その他								